



## 2023年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2022年11月4日

上場会社名 ユアサ・フナシヨク株式会社

上場取引所 東

コード番号 8006 URL <https://www.yuasa-funashoku.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山田 共之

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長 (氏名) 石橋 宏

TEL 047-433-1212

四半期報告書提出予定日 2022年11月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第2四半期の連結業績(2022年4月1日～2022年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第2四半期	58,237	7.6	568	265.8	746	102.7	515	72.5
2022年3月期第2四半期	54,149		155		368	448.8	1,870	

(注)包括利益 2023年3月期第2四半期 597百万円 (63.6%) 2022年3月期第2四半期 1,641百万円 (270.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第2四半期	114.68	
2022年3月期第2四半期	416.31	

(注)「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首から適用しているため、2022年3月期第2四半期売上高の対前年同四半期増減率は記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第2四半期	57,394	32,586	56.1	7,163.70
2022年3月期	56,694	32,305	56.3	7,100.93

(参考)自己資本 2023年3月期第2四半期 32,189百万円 2022年3月期 31,907百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期				70.00	70.00
2023年3月期					

(注)当社は定款において期末日を配当基準日と定めていますが、現時点では2023年3月期末日における配当予想額は未定です。

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日～2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	115,000	4.6	1,100	68.2	1,300	27.4	900	61.5	200.29

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2023年3月期2Q	4,897,723 株	2022年3月期	4,897,723 株
期末自己株式数	2023年3月期2Q	404,324 株	2022年3月期	404,313 株
期中平均株式数(四半期累計)	2023年3月期2Q	4,493,400 株	2022年3月期2Q	4,493,539 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(会計方針の変更) .....	9
(セグメント情報等) .....	10
3. 補足情報 .....	11
(1) 販売の状況 .....	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の各種対策やワクチン接種の進展により、経済活動は正常化に向かっております。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の動向や、不安定な国際情勢による原材料・エネルギー価格の高騰、記録的な円安の進行等、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

食品流通業界におきましては、新型コロナウイルス対策の緩和等により、外食業界の持ち直しの動きが見られるなか、一方では、輸送コストや原料高騰に伴う家庭用商品の値上げが本格化し、個人消費が切り詰められるなど、企業間競争は引き続き厳しい状況となりました。

ビジネスホテル業界におきましては、国内の新規感染者数が低水準にとどまり、イベント等における制限が緩和され人の流れも増加傾向に推移しましたが、団体客や訪日外国人の大幅な減少が継続するなど、宿泊需要の十分な回復が見込めない環境が続きました。

このような状況のなかで、当社グループは引き続き、地域に密着した営業を展開するとともに、商事部門では物流の効率化、ホテル部門ではお客様と従業員の安全を確保するなかで営業を継続してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は582億37百万円（前年同期比7.6%増）、営業利益は5億68百万円（前年同期比265.8%増）、経常利益は7億46百万円（前年同期比102.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は5億15百万円（前年同期比72.5%減）となりました。

なお、親会社株主に帰属する四半期純利益が前年同期に比べ13億55百万円減少した主な要因は、前年同期において当社船橋駅前ビルを売却したことによる固定資産売却益23億54百万円を特別利益に計上したことによるものです。

### 事業別セグメントの概況

#### ① 商事部門

商事部門につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響や消費者の節約志向が続くなか、価格競争の激化、物流コストの上昇等、依然として厳しい事業環境となりました。

このようななかで、商品供給を的確に行うとともに、新規取引の獲得、新商材の提案などを積極的に行ってまいりました。

部門別の売上高は、食品では、冷凍・チルド商品、菓子が低調に推移しましたが、加工食品、砂糖が製品価格の上昇により順調に推移し増収となりました。業務用商品では、小麦粉、油脂、燃料の販売単価上昇及び、業務用食材の順調な推移などにより増収となりました。飼料畜産では、飼料は養豚、養鶏の生産者向け販売数量が減少したものの販売価格が上昇し増収となりました。畜産は成豚集荷頭数及び枝肉販売数量が減少しましたが、枝肉の販売単価の上昇により増収となりました。米穀では、玄米の販売数量は増加しましたが、精米の販売数量が減少し相場も下落したため減収となりました。

その結果、商事部門の売上高は572億46百万円（前年同期比7.0%増）、営業利益は9億65百万円（前年同期比15.7%増）となりました。

#### ② ホテル部門

ホテル部門につきましては、新型コロナウイルスの新規感染者数が減少傾向で推移するなか、人の移動制限や各種イベント自粛も緩和されるなど、レジャー客を始め企業研修やスポーツ大会等の再開による利用が増加し増収となりました。

その結果、ホテル部門の売上高は8億84百万円（前年同期比61.2%増）、営業損失は1億70百万円（前年同期は営業損失4億13百万円）となりました。

#### ③ 不動産部門

不動産部門につきましては、賃貸料収入による売上高は1億7百万円（前年同期比5.1%減）、営業利益は1億4百万円（前年同期比6.1%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ7億円増加し573億94百万円となりました。主な内容は受取手形及び売掛金の増加6億23百万円、商品及び製品の増加2億28百万円、未収入金の増加2億8百万円、投資有価証券の増加1億30百万円、現金及び預金の減少2億55百万円、建物及び構築物(純額)の減少1億8百万円、繰延税金資産の減少71百万円などによるものです。

負債合計は、前連結会計年度末に比べ4億18百万円増加し248億7百万円となりました。主な内容は支払手形及び買掛金の増加12億97百万円、未払法人税等の減少9億20百万円などによるものです。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ2億81百万円増加し325億86百万円となりました。主な内容は利益剰余金の増加2億円、その他有価証券評価差額金の増加86百万円などによるものです。

キャッシュ・フローの状況につきましては、営業活動によるキャッシュ・フローは1億19百万円(前年同期比8億70百万円の収入減)となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益7億60百万円、受取利息及び受取配当金△1億25百万円、売上債権の増減額△6億22百万円、仕入債務の増減額12億97百万円、法人税等の支払額△10億58百万円などによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは△79百万円(前年同期比30億66百万円の収入減)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出92百万円、投資有価証券の売却による収入16百万円などによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは△3億7百万円(前年同期比58百万円の支出減)となりました。これは主に配当金の支払額△3億14百万円などによるものです。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物の四半期末残高は前連結会計年度末から2億60百万円減少し112億89百万円(前年同期比9億34百万円増)となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年3月期の連結業績予想につきましては、2022年5月13日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,590	11,334
受取手形及び売掛金	14,427	15,050
商品及び製品	1,653	1,882
仕掛品	24	28
原材料及び貯蔵品	287	228
未収入金	3,754	3,962
その他	54	77
貸倒引当金	△31	△30
流動資産合計	31,759	32,533
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	10,868	10,870
減価償却累計額	△8,320	△8,431
建物及び構築物(純額)	2,547	2,439
機械装置及び運搬具	1,826	1,835
減価償却累計額	△1,567	△1,602
機械装置及び運搬具(純額)	258	232
土地	10,651	10,651
その他	1,656	1,677
減価償却累計額	△1,461	△1,460
その他(純額)	195	217
有形固定資産合計	13,653	13,540
無形固定資産		
ソフトウェア	62	49
その他	67	75
無形固定資産合計	129	125
投資その他の資産		
投資有価証券	8,460	8,591
長期貸付金	206	196
繰延税金資産	80	8
差入保証金	2,326	2,317
その他	287	206
貸倒引当金	△209	△125
投資その他の資産合計	11,151	11,194
固定資産合計	24,934	24,861
資産合計	56,694	57,394

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,353	19,651
短期借入金	1,999	2,067
未払法人税等	1,127	207
賞与引当金	58	66
その他	1,479	1,433
流動負債合計	23,018	23,425
固定負債		
長期借入金	23	3
繰延税金負債	477	512
退職給付に係る負債	639	657
役員退職慰労引当金	10	11
長期未払金	24	24
その他	194	172
固定負債合計	1,370	1,381
負債合計	24,388	24,807
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,599	5,599
資本剰余金	5,588	5,588
利益剰余金	18,971	19,172
自己株式	△876	△876
株主資本合計	29,282	29,483
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,611	2,697
退職給付に係る調整累計額	13	8
その他の包括利益累計額合計	2,624	2,705
非支配株主持分	397	397
純資産合計	32,305	32,586
負債純資産合計	56,694	57,394

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
売上高	54,149	58,237
売上原価	50,857	54,473
売上総利益	3,291	3,764
販売費及び一般管理費	3,136	3,196
営業利益	155	568
営業外収益		
受取利息	7	5
受取配当金	113	119
その他	102	60
営業外収益合計	223	186
営業外費用		
支払利息	7	7
その他	2	1
営業外費用合計	10	8
経常利益	368	746
特別利益		
投資有価証券売却益	—	13
固定資産売却益	2,354	0
特別利益合計	2,354	13
特別損失		
固定資産処分損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	2,721	760
法人税、住民税及び事業税	856	172
法人税等調整額	△2	70
法人税等合計	853	243
四半期純利益	1,868	516
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△2	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,870	515

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
四半期純利益	1,868	516
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△233	85
退職給付に係る調整額	7	△4
その他の包括利益合計	△226	80
四半期包括利益	1,641	597
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,644	596
非支配株主に係る四半期包括利益	△2	0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	2,721	760
減価償却費	209	193
賞与引当金の増減額(△は減少)	0	7
持分法による投資損益(△は益)	△17	△8
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	23	11
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	0	0
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2	△85
受取利息及び受取配当金	△120	△125
支払利息	7	7
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△13
有形固定資産除売却損益(△は益)	△2,353	△0
売上債権の増減額(△は増加)	△192	△622
棚卸資産の増減額(△は増加)	58	△173
その他の資産の増減額(△は増加)	△68	△144
仕入債務の増減額(△は減少)	757	1,297
その他の負債の増減額(△は減少)	△374	△5
その他	119	△37
小計	775	1,061
利息及び配当金の受取額	113	123
利息の支払額	△7	△7
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	108	△1,058
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>989</b>	<b>119</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△19	△92
有形固定資産の売却による収入	3,000	2
投資有価証券の取得による支出	△3	△2
投資有価証券の売却による収入	—	16
貸付金の回収による収入	11	9
その他	△3	△13
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,986</b>	<b>△79</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△100	67
長期借入金の返済による支出	—	△19
配当金の支払額	△224	△314
その他	△42	△40
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△366</b>	<b>△307</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	7
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	3,609	△260
現金及び現金同等物の期首残高	6,744	11,549
現金及び現金同等物の四半期末残高	10,354	11,289

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	商事部門	ホテル部門	不動産部門	計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	53,487	548	113	54,149	—	54,149
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	6	0	26	32	△32	—
計	53,493	548	139	54,182	△32	54,149
セグメント利益又は損失(△)	834	△413	111	532	△376	155

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△376百万円には、のれん償却額△4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△379百万円等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・人事・経理・情報システム部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	商事部門	ホテル部門	不動産部門	計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高						
(1) 外部顧客への売上高	57,246	884	107	58,237	—	58,237
(2) セグメント間の内部売上高又は 振替高	9	0	26	36	△36	—
計	57,256	884	133	58,273	△36	58,237
セグメント利益又は損失(△)	965	△170	104	899	△331	568

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△331百万円には、のれん償却額△4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△331百万円等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない総務・人事・経理・情報システム部門等の管理部門に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3. 補足情報

## (1) 販売の状況

(単位：百万円、%)

セグメントの名称	前第2四半期連結累計期間 (2021年4月1日から 2021年9月30日まで)	当第2四半期連結累計期間 (2022年4月1日から 2022年9月30日まで)	前年同期比
食品（酒類・飲料含む）	35,712	37,316	104.5
業務用商品	7,793	9,406	120.7
米穀	3,394	3,214	94.7
飼料・畜産	6,586	7,309	111.0
商事部門計	53,487	57,246	107.0
ホテル部門	548	884	161.2
不動産部門	113	107	94.9
合計	54,149	58,237	107.6